

## ハレの場では費用便益を考えるのか？

### －花火大会の開催傾向に見る地域差から－

Is cost-benefit considered in the spatial “Hare” occasion?

: Regional differences in trends of conducting fireworks displays

小田佳代子\*・森英高\*\*・陳鶴\*・谷口守\*\*\*

Kayoko Oda\*・Hidetaka Mori\*\*・He Chen\*・Mamoru Taniguchi\*\*\*

Events conducted by local communities, so-called “Matsuri” in Japan, can be important for regional revitalization. At regional events, unusual consumption behavior is observed that is not seen in daily life. That trend might reflect some differences among regions. This study specifically addressed the trend of fireworks displays as regional events, according to prefecture units. This analysis clarified regional differences according to deviation from evaluations such as cost-benefit assessments in special consumption behavior.

**Keywords:** regional revitalization, regional difference, fireworks display  
地域活性化、地域差、花火大会

#### 1. はじめに

祭りや地域イベントは、観光コンテンツそのものとしてや PR の手段として、地域活性化を考えるうえで欠くことのできない要素となっている<sup>1)</sup>。それらは、生活の中で非日常的な行事が行われる時間や空間、「ハレ」の場である。個人ベースで見ればハレの場では日常生活とは区別された、非日常的な行動がなされる。近年では「自分へのご褒美」など、祭り以外でも私的にハレの場が準備されるケースも増えており、そこでは日常から切り離れた「ハレ消費」<sup>2)</sup>と呼ばれる不要不急の高額消費がなされる傾向にある。その場では普段の経済観念から離れた消費行動が暗黙のうちに許される空気が流れており、それはすなわち費用便益的な評価の視点からの開放といえる。

この個人のハレ消費と同様に、地域や行政にとってもハレ消費と呼べるものが存在する。オリンピックの誘致などもそれに相当しようが、本稿ではどの地域も普遍的に実施する可能性のある地域の花火大会を取り上げる。花火の打上には一定のコストを要するが、花火そのものは一瞬で燃えて無くなってしまふ。他の一般的な財の購入と異なり、その物としては何も直接的な便益を生まない。集客による間接的な地域活性化効果は一般的な祭りと同様当然期待されるが、むしろハレの場における地域の心意気として、それにどれだけ入れ込むかを観察する題材としてはこれに勝るものは無い。以上のような考えから、本稿では各地域における花火大会の実施状況、特に打上発数に、その地域におけるハレ消費としての考え方が投影されていると考えた。その地域間比較を行う事

を通じて、地域のハレ消費の性向とその意義について考察を加えることを目的とする。

#### 2. 研究対象の概要

ハレの場である祭り自体を対象とした研究は既に数多く、都市計画分野では空間整備的な観点から多くの優れたアプローチがなされている<sup>4)</sup>。また、祭りに関わる意識という観点からはソーシャル・キャピタルに着目した取り組みも近年見られるようになってきている<sup>6)</sup>。一方、祭りなどのハレの場における、費用便益的な視点を超える行為について言及した研究は存在しない。なお、この問題意識は単に花火大会や祭りのケースに留まらない。「今回は特別だから」と言う理由付けがハレの場の共通の感覚であるとすれば、本分析は抑えの利かない政府や自治体の財政支出構造を解く上でも有効なヒントを示すものと考えられる。

まず、表1は3章で述べる抽出方法によって作成した、2013年の全国の花火大会から打上発数の多い上位20大会を並べたものである。このうち半数が関東甲信越地方に集中していることから、地域的な偏在が予想される。地域差を検証するうえで、全国より網羅的に情報を収集する必要がある。一定量以上の花火を打上げる際には、自治体に届け出る必要あるため<sup>7)</sup>、その受理状況から網羅的に把握できると考えられるが、その情報は一般には公開されておらず、入手することができない。

このため、データの収集は一般的に公表されている情報から抽出する方法を採用した。近年ネット上で全国の花火大会を網羅的に整理するサイトが表2に示すように

\* 非会員 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 (University of Tsukuba)

\*\* 学生会員 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 (University of Tsukuba)

\*\*\*正会員 筑波大学システム情報系 (University of Tsukuba)

【表 1】 全国の打上発数上位 20 大会 (2013 年)

開催地	開催日	大会名	打上発数
長野県 諏訪市	8/15	第65回諏訪湖祭湖上花火大会	約 40,000
岐阜県 岐阜市	7/27	第57回全国選抜長良川中日花火大会	30,000
岐阜県 岐阜市	8/3	第68回全国花火大会	約 30,000
静岡県 袋井市	8/10	全国花火名人選抜競技大会 ふくろい遠州の花火2013	約 25,000
大阪府 富田林市	8/1	教祖祭PL花火芸術	25,000
千葉県 柏市	8/3	柏・我孫子花火大会in手賀沼	約 24,500
東京都 墨田区	7/27	第36回 隅田川花火大会	約 22,500
北海道 札幌市南区	7/14	家庭教師のアルファPresents第3回真駒内花火大会	22,000
北海道 帯広市	8/13	第63回勝毎花火大会	約 20,000
山形県 山形市	8/14	第34回山形大花火大会	約 20,000
茨城県 古河市	8/3	第8回古河花火大会 ～関東のドマンナカに咲く三尺の大輪～	20,000
茨城県 土浦市	10/5	第82回土浦全国花火競技大会	約 20,000
栃木県 真岡市	7/27	第44回真岡市夏祭り大花火大会	約 20,000
栃木県 小山市	7/28	おやまサマーフェスティバル2013～第62回小山の花火～	約 20,000
栃木県 足利市	8/3	2013わたらせ・サマー・フェスタ 第99回足利花火大会	20,000
栃木県 那須塩原市	8/4	那須野ふるさと花火大会	20,000
栃木県 宇都宮市	8/10	2013うつのみや花火大会～キセキ～	約 20,000
新潟県 長岡市	8/2～8/3	長岡まつり 大花火大会	20,000
石川県 能美郡川北町	8/3	第28回川北まつり北國大花火川北大会	20,000
山梨県 西八代郡市川三郷町	8/7	市川三郷町ふるさと夏まつり「第25回神明の花火大会」	約 20,000
長崎県 佐世保市	9/22	九州一花火大会	20,000

【表 2】 データ抽出元として検討した花火情報サイト一覧

花火情報ページ名	ホームページ名	対象掲載期間 (全て2013年)	掲載 件数	作成元	URL
花火大会2013花火カレンダー	Walkerplus	7・8・9月 <sup>1)</sup>	1003	株式会社KADOKAWA	http://hanabi.walkerplus.com/
花火大会&夏祭り特集2013	Yahoo!Japan	6月27日～9月2日	953	協同組合インフォメーションテクノロジー関西	http://hanabiyahoo.co.jp/
SmileHaNaBi	夜景ワールド <sup>2)</sup>	通年	315		http://smile-hanabijp/profile.php
花火大会2013	じゃらんnet	7～10月	449	(株)リクルートライフスタイル	http://www.jalan.net/theme/hanabi/
全国花火大会&夏祭り2013	るるぶ.com	7～9月	485	JTBパブリッシング	http://www.rurubu.com/season/summer/hanabi/index.aspx
花火大会特集2013	MAPPLE 観光ガイド	6月27日～10月31日	569	昭文社	http://www.mapple.net/sp_hanabi/
花火大会スケジュール	公益社団法人日本煙火協会	4～11月	230	公益社団法人日本煙火協会	http://www.hanabi-ipa.jp/index.html

1)例外的に期間外の掲載もあり(例:10/5土浦花火大会等)  
 2)ユーザーが花火大会を登録していく形式の情報交換サイト(管理人:ひで)

複数たちがあがっており、その主要なものを対象とすることで、抜けと偏りのないデータ抽出を実施した。具体的には、ホームページ名で記すと全国の大会を幅広く網羅している walkerplus と Yahoo!Japan、および冬季の花火大会の情報も唯一網羅している夜景ワールドの3サイトに掲載されている花火大会をすべて対象とした。本報告では「ハレ」の場における、価値判断の尺度として花火大会の開催傾向を用い分析を行う。抽出元に掲載される花火大会のうち、特に 1,000 発以上の打上発数の規模のものに着目する。抽出の基準とした 1,000 発の規模の大会は費用でいうと、500～1,000 万円程度の予算規模である。<sup>89)</sup>

打上発数の数え方は基本的に主催者発表に基づくもの

であり<sup>10)</sup>、その数字には多少の誤差が含まれる事を前提にした考察が必要になる。このため、本分析では打上発数を 4 ランク (1,000～2,999 発、3,000～4,999 発、5,000～9,999 発、10,000 発以上) に大別し、大きな傾向として把握することを主眼に置いた。

なお、打上発数が非公開・未公開・不明とされている大会 (以下、打上発数不明大会) も存在しており、分析には反映していないが、東北地方の震災復興イベント 14 件を除けば地域による大きな偏在は存在しない。よって、打上発数不明大会を扱わないことによる分析への大きな影響は小さいものといえる。

また、開催が複数日にわたる花火大会について、発数をどう考えるかも注意が必要である。本研究では 4 日間

以内の大会は延べ打上発数を、4日を超えて打上を行う大会は一日当たりの打上発数を適用した。また、長期に渡るイベント期間中に小規模な打上を連日繰り返す形式の大会は、「ハレの日、非日常的、特別な日のイベント」という本研究との趣旨から外れるため、分析の対象から除外した。

以上のような手順を経て抽出を行ったデータについて、以下では都道府県ごとの集計を通じて考察を加える。

### 3. 結果と考察

結果を図1から図3に示す。図1は都道府県ごとの開催傾向を、図2は大会規模別の花火消費性向を示している。図3は総打上発数を都道府県人口で除した図であり、人口1,000人に比した花火消費の多寡を示している。また、以下では便宜的に、1,000~2,999発規模を小規模、3,000~4,999発規模を中規模、5,000~9,999発を大規模、10,000発以上を特大規模と表す。

これらの結果から以下の事が考察できる。

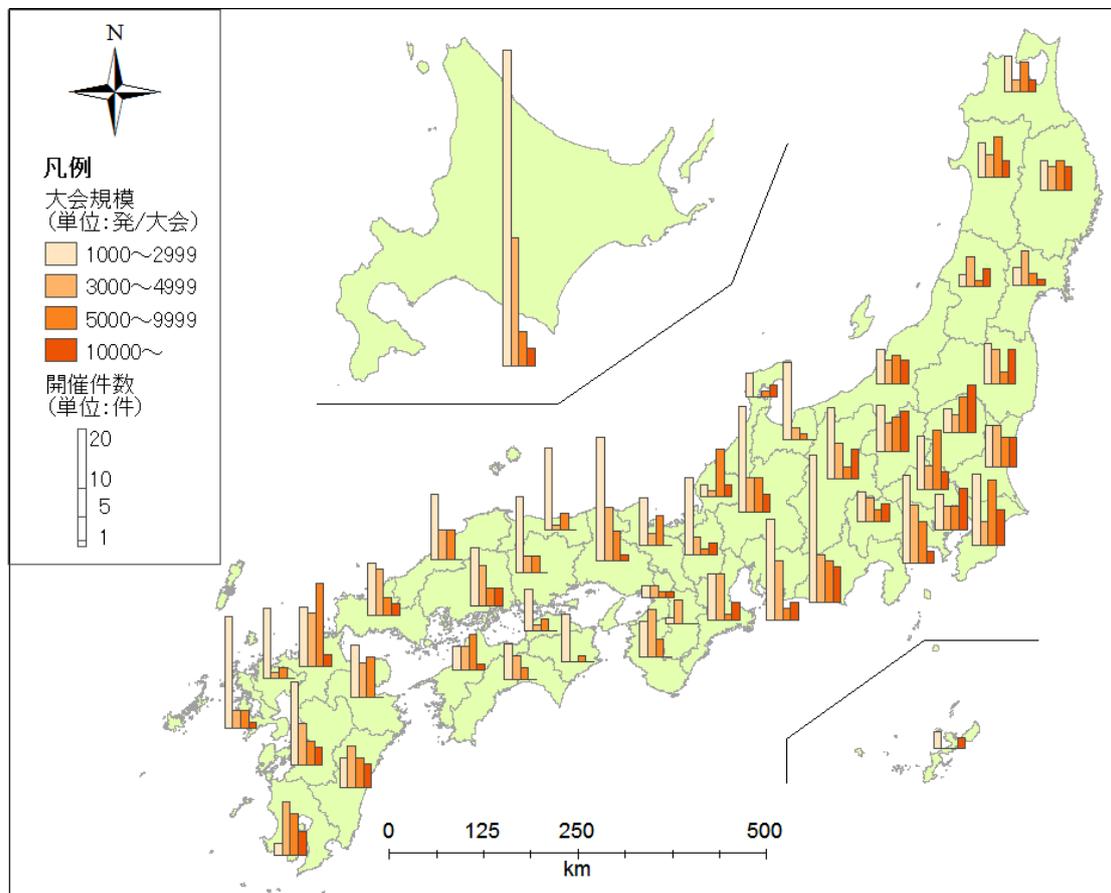
1) これらの図からまず明らかな事は、地域によって花火大会の開催傾向、および消費性向は大きく異なると言う事である。これは、ハレの場に対する費用便益の考え方

が地域によって大きく異なる可能性があることを示唆している。

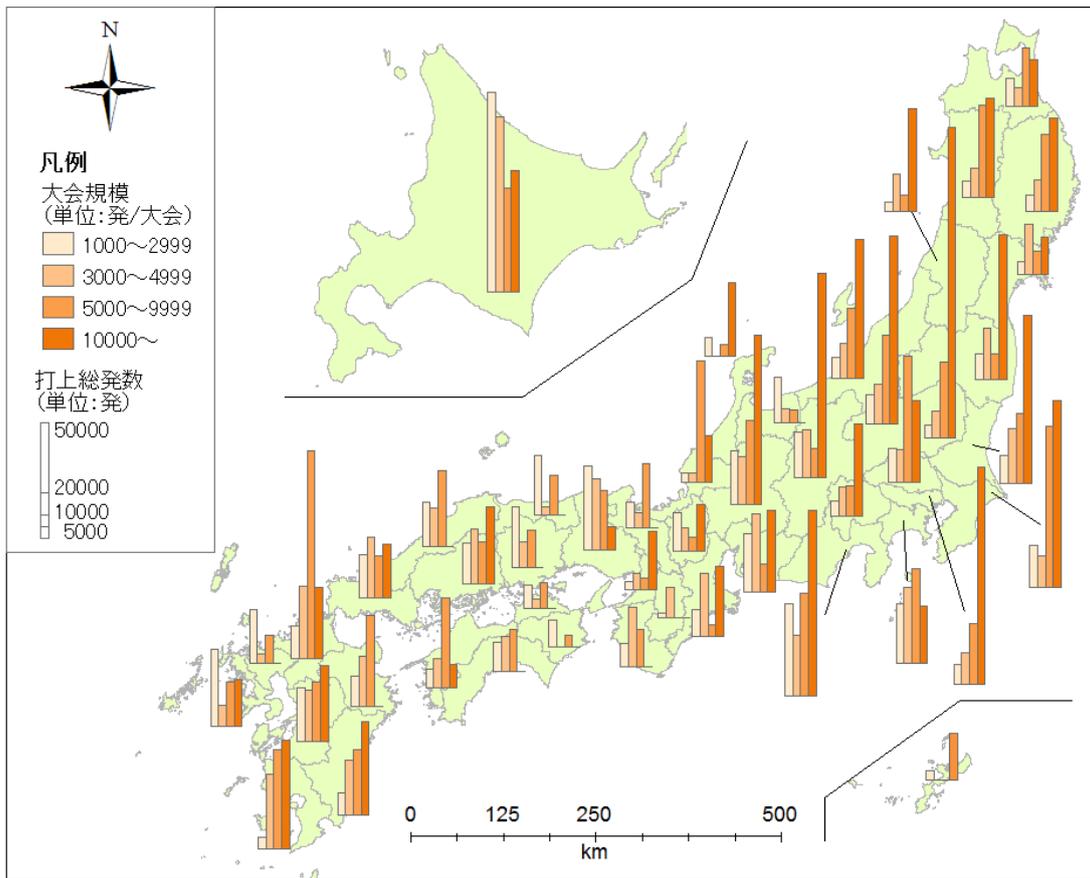
2) 特に費用便益的な発想を離れたハレ消費の性格が色濃い特大規模の大会開催に関する姿勢が、地域によって明確に異なっている。図1より、大阪、兵庫、奈良、徳島など大阪を中心とする地域では特大大会がほとんど実施されていない。その一方で、関東から東北地方、および九州地方などでは特大大会が多く実施されている。

3) 図2のように、累積打上発数で見ると、ハレ消費に対する地域的差異がより顕著に読み取れる。栃木、群馬、福島などの北関東から南東北にかけてが、とにかく発数を多くしたいという傾向が顕著であり、ハレ消費志向が強いエリアといえる。

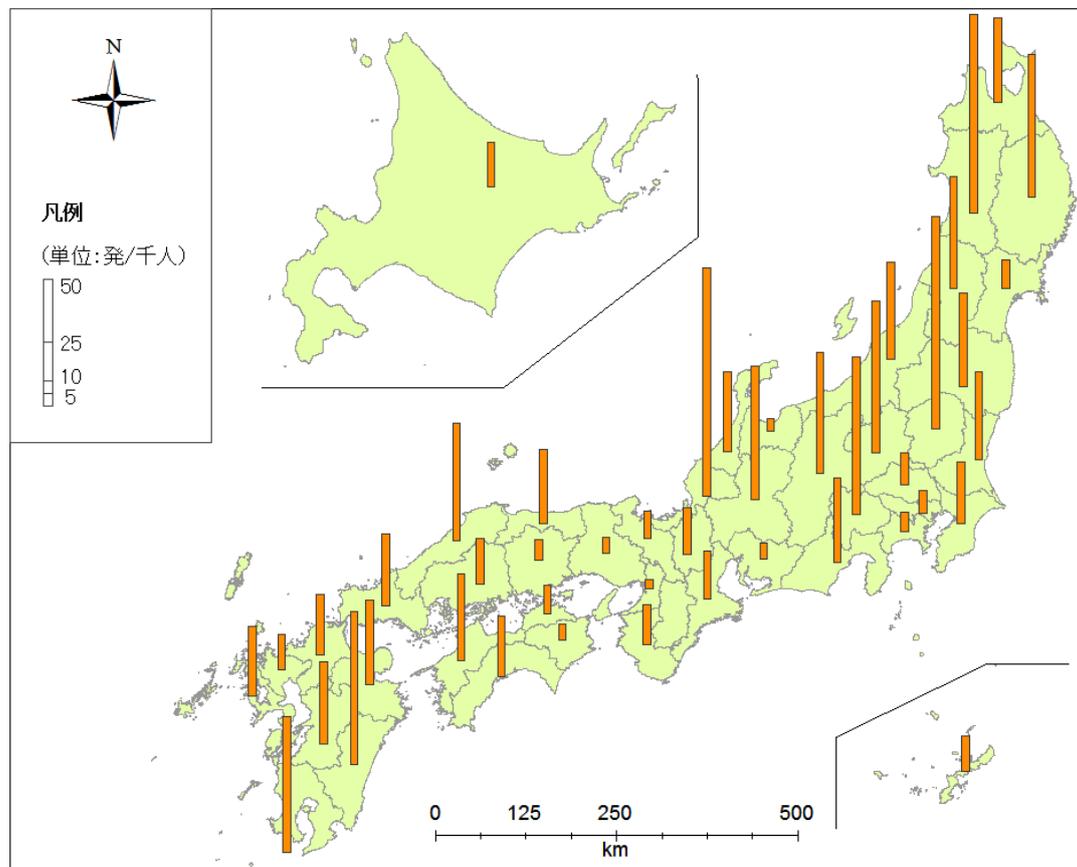
4) 図2より、ごく大まかに打上発数を見れば、関ヶ原以東（東日本）においては特大大会の比重がいずれの都道府県でも最も高くなっている場合が多い。一方、関ヶ原以西（西日本）では、その傾向は崩れ、必ずしも極端な特大大会志向は見られない。日本の東西で、ハレ消費に関する基本的な性向が異なっていることが読み取れる。なお、図1より北海道は小規模花火の割合が多いのは、数多い市町村ごとの小規模な観光花火が多いためである。



【図1】都道府県・大会規模別開催件数



【図 2】 都道府県・大会規模別累計打上発数



【図 3】 規模 5000 発以上の大会における、人口 1000 人<sup>※</sup> あたりの累計打上発数

注) 2012 年 10 月 1 日時点

5) 図3のように人口当たりで換算すると、大阪、名古屋、東京などの大都市部で打上発数が少なくなっている。都市部であるために一大会当たりの観覧者数が相対的に多く、場所を分けて何度も実施することの意味が少ない事がその一つの理由となっている事が類推される。

このような特徴的な傾向が見られたが、その中でも特に顕著な特大花火が大阪近傍で少なく、東日本で多くなっている理由について、下記に考察を加える。ちなみに、打上発数が不明として本分析には反映されていないが、大阪の淀川花火大会は、企業抛出や寄付金による完全民間運営の形が取られている。その運営主体は新聞のインタビューで行政から1円も受け取っていないことや、赤字運営ほど恥ずかしいものはないとの考えを述べている<sup>11)</sup>。対して、東日本を代表する隅田川花火大会では、1億円もの補助金を自治体から受けて催行されている<sup>9)</sup>。花火大会というハレの場が、大阪の一部の大会では「採算」という価値観のもとで運営され、東日本の多くの大会では税金を使って運営されていることが類推される。

その裏付けの一例として、調布市の広報・広聴課に寄せられた投書とそれに対する回答は税金を用いた花火大会運営にあたっての価値観は興味深い。寄せられた投書の内容は、「渋滞や近隣住民の苦情といった弊害を招く花火大会のような娯楽に税金をつぎ込むのはいかなものか」という内容で、回答では「市民の満足度が高い事業である」ことが事業継続の根拠として冒頭に述べられている。その後段では地域への経済効果にも触れてはいるが、採算という考え方を持ち出していない<sup>12)</sup>。

大阪及びその周辺ではハレの場においても費用便益感が抜けず、そのために特大規模の花火大会開催を志向しないという解釈も可能である。ちなみに、大阪でも特大規模の花火大会が皆無ということではなく、PL教祖祭花火芸術が実施されている。しかしそれは、内々の宗教行事という位置づけであり、そもそも費用対効果という軸上で議論できる性格のものではない。

#### 4. まとめ

本稿では花火大会の開催傾向を尺度として、非日常的な場における価値判断基準の地域差を検討した。筆者らは花火打上のような地域のハレ消費において、費用便益的な発想により基づくべきだ、とか、その逆に基づくべきではないといった事を主張する意図はない。たとえば極めて費用便益的な判断に基づく路線バスのサービス縮

小が、地域全体の厚生や経済活動について結果的にマイナスに作用することもある。またその逆に過度なハレ消費は結果的に地域の負担となることも事実である。ただ、ハレ消費において、費用便益的な視点を持ち込むかどうかは地域によって大きな差が有り、その結果ハレ消費の性向自体もその規模に違いが生じることをはじめて示唆することができた。

花火大会の全国的な開催傾向には、東日本の特大大会志向、大阪エリアでの特大大会回避志向という二つの大きな傾向が重なりあっている事が明らかになった。それぞれの代表的な花火大会の運営方針から、背後にある価値判断の差異を考察すると、大阪ではハレの場においても採算の発想を保持しており、東日本などその他の地域の多くは公費を投入しても催行する、という違いが見られた。これは、大阪の商人気質、江戸っ子の職人氣質という言いならわしを表した結果となっているようにも思える。価値判断に地域差が見られるということはすなわち、地域活性化のプレイヤーの参画を促すためには、全国で画一されたアプローチではなく、その地域の価値判断に沿った事業の展開しなければならないことを示唆している。

#### 5. 参考文献

- 1) 官公庁観光産業課 地域再生のための観光業支援ハンドブック. [http://www.mlit.go.jp/kankocho/page06\\_000056.html](http://www.mlit.go.jp/kankocho/page06_000056.html), 参照 (2013-12-21) .
- 2) 観光政策審議会 今後の観光政策の基本的な方向について (答申第39号) . <http://www.mlit.go.jp/singikai/unyusingikai/kankosin/kankosin39.html>, 参照 (2013-12-21)
- 3) 日本経済新聞 “ハレ消費 : きょうのキーワード : やさしい投資 : マネー : 日本経済新聞”. [http://www.nikkei.com/money/investment/toushiyougo.aspx?g=DGXNASFZ1502C\\_15082013K16300](http://www.nikkei.com/money/investment/toushiyougo.aspx?g=DGXNASFZ1502C_15082013K16300), 参照 (2013-12-21)
- 4) 平田圭子, 浅沼則行, 菅原辰幸. 祭事における商店街来街者のすわり空間整備に関する研究 日本建築学会計画系論文集. 2011. vol. 76, no. 663, p.895-902.
- 5) 松浦健治郎. 都市空間に演出される祝祭空間の都市形態学的読解～春と秋の高山祭を事例として. 都市計画論文集. 2012. vol. 47, no. 3, p.583-588.
- 6) 伊多波良雄, 八木匡. ソーシャル・キャピタルとしての祭りー京都三大祭りの経済的評価を中心にー. Doshisha University Life Risk Research Center Discussion Paper Series No. 2009-02.
- 7) 総務省. 法令データ提供システム. ”火薬類取締法施行規則 (昭和二十五年十月三十一日通商産業省令第八十八号)”. <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>, 参照 (2013-12-28) .
- 8) KADOKAWA CORPORATION. <http://hanabi.walkerplus.com/unchiku/23122.html>
- 9) 日本経済新聞 “夏彩の大輪、資金源は?” . 2013-7-30.
- 10) 日本経済新聞 “花火の数え方とドーンと下げ”. 2008-7-31.
- 11) 日本経済新聞 “淀川花火 不況の空に大輪”. 2009-8-1.
- 12) 調布市役所. “Q 花火大会よりも他事業に税金を使ってほしい (平成21年8月) - 調布市ホームページ”. <http://www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1264642645568/index.html>, 参照 (2013-12-21)
- 13) 総務省 統計局. 第六十三回 日本統計年鑑 平成26年 2-3 都道府県別人口. <http://www.stat.go.jp/data/nenkan/02.htm>, 参照 (2013-12-10)